

(まちづくり団体) 重伝建を考える会
(行政) 呉市文化振興課



構成人数：(H26) 137名 (地区人口約240名)
(H6結成当初) 42名
構成年齢：ほとんどが高齢者 (最若年齢は40歳)
活動費用：年会費2,000円, まちづくり助成金

※重伝建：重要伝統的建造物群保存地区の略称
全国各地に残る歴史的な集落・町並みの保存が図られるようになり、市町村は国に申し出をし、価値が高いと判断されれば重要伝統的建造物群保存地区に選定される。

【まちづくり団体について】

1. まちづくりのきっかけ

仲間との会合

平成6年、御手洗地区の重伝建指定に向け、行政主導で活動が行われる中で地域住民に対して活動内容や重伝建についての説明が行われた。

この説明を受けた後、数人の仲間内でいつもの飲み会で話していると、「わしらのまちなのに行政任せでいいんか?」「わしらも何かしようで!」と声があがって盛り上がり、その内の一人がまちづくり活動を始める。



キーパーソン誕生!

2. まず何から始めたか

団体発足

まちづくりに参画しようという趣意書を作成し、御手洗地区全戸に配布した。

その結果、42名の参加者を得て、キーパーソンを会長とする「重伝建を考える会」が発足した。

3. キーパーソンとの連携の図り方

自然な関わり

小さな地区であることもあり、もともと地域のつながりが強く、会長自ら情報発信等を行って地域住民に呼びかけていたため、自然と連携がとれていた。

キーパーソンに聞きました。

4. 成果, 結果を出すために実施したこと

- ①歴史勉強会
- ②美化運動
- ③情報発信

①故郷を誇りを持って語れるように、後輩に引き継ぐために、月1回程度御手洗歴史勉強会を開催。
まちを訪れた人に地区内全ての案内はできないまでも、自分の住んでいる家の付近だけは案内できるようにし、積極的に声掛けを行っておもてなしをする。

②老人会、町内会と合同で2ヶ月に1回町内清掃を行う。
現在は呼びかけなしでも個人で積極的に清掃活動を行うようになっている

③行政から得た情報や会員の意見等を2ヶ月に1回の「重伝建だより」によって周知し、年2回御手洗の活動内容を発信する「みたらい通志」の冊子を3000部発行。(主に地域住民や御手洗から外に出ている方々に送付しており、御手洗地区のアピールや集客のためではない。)

ワークショップについて

開催回数：数人で話し合う座談会が不定期で開催されている。

1. 内容

学生を交えた まち歩き グループ討論

アドバイザー：大学教授

地域住民で行うワークショップは数人で次はこうしようと話し合う座談会が不定期に開催されているのみであった。

しかし、平成22年から地元大学生との交流が始まり、大学主催で地域住民を交えた座談会が開催されるようになり、学生の意見が反映されてイベントが行われるようになった。(御手洗での学生ライブ)

その後、平成24年には学生と一緒にまち歩き、グループ討論を行い、学生から地域住民に向けて今後の御手洗のまちづくりについてプレゼンしてもらった。

まちなみについて

1. まちなみの変化

【状況・規模】

まちなみ規模が 拡大

重伝建認定から人口減少と共に空き家は増加しているが、建物の修景は20年で100棟以上行っており、まちなみの規模は拡大している。現在は2~3件整備予定の建物がある。

電話線の地中化を行い、無電柱化整備を行っている。



(H6) 重伝建認定
(H26) 現在

【来訪者数】

重伝建認定直後は、御手洗地区が島であったこともあり、来訪者は団体客や重伝建が好きな人たちに限られ、多少増加したもののほぼ横ばいの状況であった。

その後、橋の開通等により家族連れ個人客が増加し、ピーク時には年間7,000人が訪れていた。

大きく変化したのは、橋の開通により陸続きとなったことで、家族連れ等の個人客が増加し、来訪者は倍増した。

【来訪者の滞在時間】

御手洗地区だけでなく呉市の観光のために

御手洗地区はガイドに説明してもらいながらも2時間弱で観光することができる。

食事処も3箇所しかないため、昼食前又は昼食後に訪れ、御手洗地区で食事をとらず帰ることが多い。

これは重伝建認定から現在に至るまで変化していない。地域住民は、とびしま（蒲刈・下蒲刈・豊浜・豊）や呉市全域と合わせた総合的な観光の一部であればいいという考え方であり、地元でお金を使っていたことや長く滞在してもらうことに重きを置いていない。（お土産屋にも豊町の特産品だけでなく、他地域のものも多く売られている。）

その後の活動

1. どのような継続活動を行っているか

- ①竹の一輪挿し
- ②ガイド養成
- ③声掛け運動

①女性会員が家の前に一輪挿しを飾る活動を行っており、清掃活動と合わせて来訪者をきれいなまちでおもてなししようとしている。

②住民全員がガイドとなれるよう、定期的に御手洗の歴史勉強会を開催している。

③来訪者に積極的に声をかけ、自分の家の周辺だけでも案内するようにし、コミュニケーションをとるようにしている。



乙女座 かつてはモダンな劇場、映画館として親しまれ、平成14年に復元

外観

内観

1. まちづくりを行って一番変化した点

地域住民に誇りが生まれている

地域住民に誇りが生まれているのに加え、まちをきれいにしてほしいという意欲や来訪者に積極的に声掛けをする人が増加している。

2. 今後の課題

①外部への情報発信

②学生考案まちづくりの実行

③担い手不足(高齢化)

①ホームページによる情報発信は常々考えているが、高齢化により維持管理を行っていくのが難しく実行できていない。

②ワークショップで学生たちが考えた御手洗のまちづくりを実行に移したいとは思っているが、予算や人材の不足により実行できていない。

③過疎高齢化が深刻であり、人口増加、担い手探しが急務である（御手洗地区の人口は現在約240人）

3. 今後の展望

サイクリング聖地としての観光

現在、とびしまサイクリングロードが整備されており、サイクリングの聖地としての観光を目指している。（日本で初めて自転車での世界一周無銭旅行を成し遂げた中村春吉は御手洗出身。）

